

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 25 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：当院における包括的口腔ケアシステムを利用した老人介護施設への介入</p>
<p>2. 申請者名：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 町田純一郎</p>
<p>3. 実施組織：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 トヨタ記念病院 感染症科 豊田加茂歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>当院では、平成 23 年度より歯科保健活動助成金を受けて入院患者を対象とした口腔ケア実施による医学的評価について学会発表と論文発表を行ってきた。本年度は目標通り、唾液性状、口腔細菌数、細菌種、に注目したデータの蓄積を行う事が出来た。また対象人数を、当初目的の 30 名から 50 名に増員させる事によって統計学的有意差検討を行う事ができた。</p> <p>この結果は、感染症科医師、看護師、薬剤師など出席し、演題数が 1030 を数える感染に関する国内最大の学会（日本環境感染学会総会・学術集会）にて口演形式での発表を行った。また愛知県三河地区の基幹病院口腔外科との合同勉強会と通して情報の共有を図ると共に、病院内での看護師が日々行う口腔管理にも積極的に情報提供する事ができた。</p>
<p>5. 事業の内容</p> <p>1) 介護施設における専門的口腔管理（ケア）の有用性に関する検討</p> <p>当院では、平成 21 年より入院患者に対する口腔ケアを包括的に実施している。平成 23 年度歯科保健活動助成金を受けて入院患者 842 名を対象とした口腔ケア実施による医学的評価と当科における口腔管理システムについて日本環境感染学会雑誌に投稿した（<b>水谷文香 他：環境感染誌 28(4)：223-239. 2013</b>）。本年度は、さらに質の高いエビデンスを得る事を目的とし、準備委員会（当院歯科口腔外科、感染症科）を組織し、倫理委員会の審査を経て本事業を実施した。</p> <p><u>対象者</u>；医学的背景を統一するために当院併設の保健施設入所者の中で Barthel index で洗顔、整髪、歯磨き、髭剃りに部分介助を要し、熱発などの急性症状がなく、残存歯数 10 本以上を有するの健施設入所者 50 名を対象とした。</p> <p><u>検査項目</u>；全身状態、歯周ポケット、歯周病検査、唾液 pH、口腔細菌数、細菌種とし、統計学的解析には SAS 社のコンピューター JMP を使用した。</p> <p><u>方法</u>；対象者から文章による同意を得たあとに、各検査を実施、その後歯科衛生士による専門的口腔管理を 3 日間連続で実施した。その後、同様の検査を行い、比較検討を行った。</p> <p><u>結果</u>；歯周ポケット、歯垢付着度、細菌数の改善を認めた。また、義歯使用者にはカンジダをより多く検出するも、専門的口腔ケアによりカンジダ陽性者の 67% はカンジダ減少もしくは陰性化を得る事が出来た。さらに義歯使用者の歯周ポケットは、専門的口腔ケアにより統計学的有意に改善した。</p> <p>2) 当院での試みを学会等で報告し口腔ケアの重要性を広める。</p> <p>この結果は、第 29 回日本環境感染学会学術総会で報告した。</p> <p>また、岡崎市民病院、碧南市民病院（両病院はともに 500 床を超える病院）といった愛知県三河地区の基幹病院歯科口腔外科との合同勉強会を開催した。この中で各病院での口腔管理の取り組みについて協議し、この地域での歯科保健活動の連携を深める事ができた。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）</p> <p>超高齢化が進む日本において、質の高い生活を維持するために 8020 運動は、「歯を残すだけの活動」から「口腔全体の機能を維持回復させるための活動」へと変化しつつある。その中で専門的口腔管理に関する質の高いエビデンスの蓄積は急務である。本事業では専門的口腔管理による効果を統計学的有意差検討をもって証明し報告できた。今後はこの結果をもとに誤嚥性肺炎の予防、ICU 入院日数の減少、術後感染症の予防など、さらなる臨床研究を行い、口腔保健の向上に努めたい。</p>